

舟戸小学校

生活科 学習指導案

授業学級	第 2 学年 3 組
単元名	広がれ わたし
授業者	吉野 優香

第2学年3組 生活科学習指導案

令和8年2月3日(火) 第5校時
 活動場所 2年3組教室
 在籍児童 30名
 指導者 教諭 吉野 優香

1 単元名 「広がれ わたし」

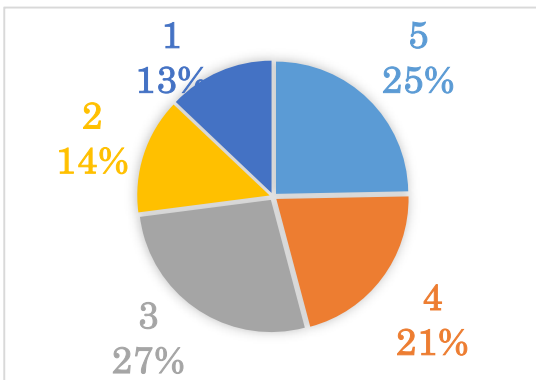
2 単元について

(1) 児童観

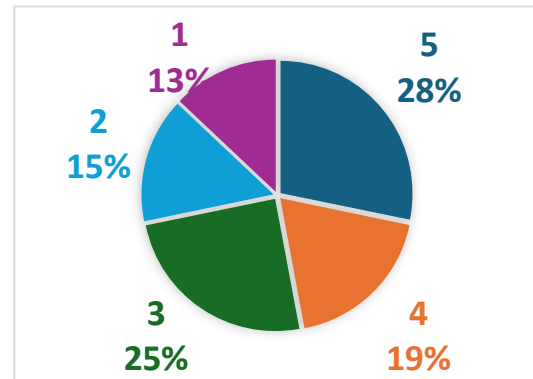
本学年の児童は、友達のよいところを見つけたり、互いにアドバイスをし合ったりすることを楽しんでいる児童が多い。「もっともっとまちたんけん」の学習では、施設や店にあるものだけでなく、そこで働く人々の活動にも着目し、施設や店の人が働きはじめたきっかけや仕事の大変さ、思いや願い等を質問するなど、意欲的に地域の方々と関わっていた。探検を通して、「質問に優しく答えてくれた。」「いつも私たちを見守ってくれている。」等の感謝の気持ちや自分との関わりに気付いたり、「今度買い物に行きたい。」「あいさつをしたい。」等のお店の人の願いに応じて行動したいという気持ちをもったりする児童も見られるようになった。

7月に本学級30名にアンケートを実施した。結果は以下の通りである。

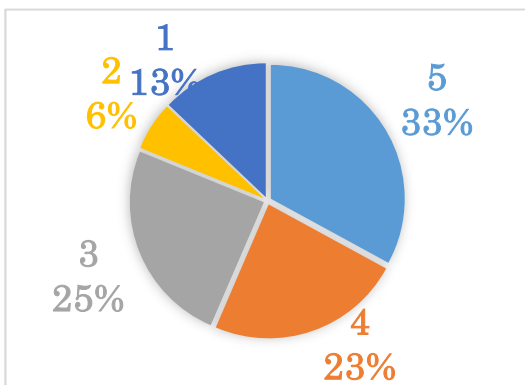
話し合いは好きですか。



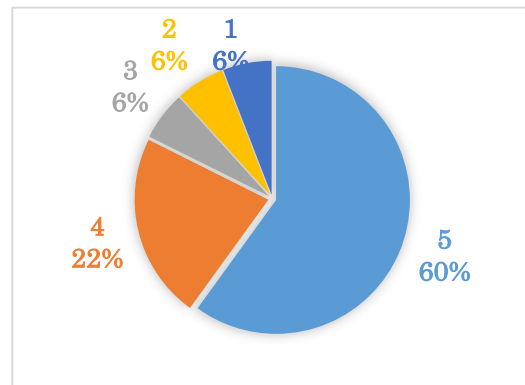
自分の考えを伝えることは好きですか。



話し合いの時、自分の考えと同じ所や違う所を見つけていますか。



問題を最後まで解こうとしていますか。



5当てはまる 4どちらかといえば当てはまる 3どちらともいえない 2どちらかという当てはまらない 1当てはまらない

「生活科は好きですか」という質問に対しては、約9割の子どもたちが「生活科は好き」と答えた。「生活科の好きなところはどんなところですか」という質問では、「植物を育てる」「遊ぶものをつくる」という回答が多く、「友達と一緒に作る」「友達と協力する」など人との関わりに関する回答をした児童はあまりいなかった。

「話し合いは好きですか」という質問に対し、「好き」と回答した児童は約5割だった。「自分の考えを伝えることが好きだ」、「話し合いの時、自分の考えと同じ所や違う所を見つけている」と回答した児童も約5割にとどまった。「問題を最後まで解こうとしていますか」の質問に対しては、約6割が「当てはまる」と回答した。

アンケートの結果から、本学年の児童は、問題に向かって最後まで頑張ろうとする児童が多いことが分かった。一方で、「同じ所や違う所を見つける」など、他児の意見や考えに目を向けている児童は少なく、話し合い活動で自分の考えを伝えることに対して苦手意識をもっている児童も一定数いることが分かった。

そのため、児童が自分の考えを伝えることの意味や楽しさを感じられるような手立てを考え、話し合いへの苦手意識をなくしていく。また、活動の目的を明確にして、他児の多様な考えを取り入れることの意義をもてるようにしていく。

(2) 単元設定の趣旨と構成上の配慮

本単元は、「小学校学習指導要領」の内容(9)「自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする」を受けて設定したものである。成長した自分を実感し、それを支えてくれた人に対する感謝の気持ちをもつとともに、成長の喜びが更なる成長を願う心につながっていくことを目指している。

本単元では、まずこれまで撮りためた学校での活動写真を見ながらこの1年間を振り返り、印象に残っていることを話し合う。そのあとに、1年間の自分の成長について考え、自分自身の成長に気付けるようにする。また、自分の家庭から成長に関わるもの(これまでのテストやノート、身体測定の結果、自分が描いた絵)などを持ち寄り、自分の成長した姿を一人一人が考えていく。自分が成長した姿を全体で話し合うことで、児童が様々な面から自分の成長を捉えられるようにし、成長は「体のこと」「心のこと」「学習のこと」「暮らしのこと」の4つに分類されることに気付けるようにする。

その後、友達のよいところを互いに伝え合う活動を通して、自分では気付かなかった成長を発見できるようにし、どうしてそういう自分になったのか、いつからこういう自分になったのかを調べたいという気持ちをもてるようにし、インタビュー活動につなげていく。

インタビューの相手を決める際には、児童の家庭環境や就学前教育の状況に十分配慮して決定するようにする。また、インタビュー活動の前には、自分が成長できたのには「ひみつ」がありそうだという気持ちをもてるようにしていく。インタビュー後は、その「ひみつ」を見つけるために友達と話し合い、成長の「ひみつ」を見つけていく。その中で、成長できたのは、自分の頑張りや周囲の人々からの支えの両方が欠かせないということに気付かせていく。

自分の成長を調査することで、「自分の成長についてまとめたい」という気持ちが児童一人一人に芽生えるようにし、まとめ活動に移行する。まとめる際には、児童一人一人が伝えたいことに合った表現方法(絵巻物、ランキング、新聞、すごろく、絵本など)を選べるように配慮する。

発表会に向けては、誰に向けて伝えるのかを意識できるようにする。児童が自分の成長を発信することで、これからも自分のよいところを伸ばしていこうという意欲がもてるようにしていく。

(3) 児童の意識の流れ

小単元 (時数)	児童の意識	ねらいに迫る手立て
<p>①今のわたしは どんなわたし (3)</p> <p>調べる</p> <p>↓</p> <p>振り返る</p>	<p>1年間の出来事を振り返ってみよう。 楽しかったことは何だろう。頑張ったことは何かな。</p> <p>どんなところが成長したかな。 成長したところは、「体のこと」だけでなく「心のこと」「学習のこと」「暮らしのこと」もあることが分かるね。</p> <p>友達にもわたしのよいところを聞いてみたいな。 友達のよいところを伝えてあげたいな。</p> <p>たくさんの友達から優しいと言われてうれしかったよ。わたしって、そんなに優しいのかな。</p>	<p>児童一人一人が自分の成長を実感するために、撮りためた写真や成果物、掲示物など具体的な手がかりを用意する。</p> <p>児童が成長を多角的に捉えられえるようにするために、内面的成長など、児童が気付きにくい観点に注目している児童を取り上げ、視点を提示していく。</p> <p>友達のよいところを書いてカードを交換する際には、まずは同じグループの児童に書くなど、偏りが出ないように配慮する。</p>
<p>②今のわたしになるまで (3)</p> <p>振り返る</p> <p>↓</p> <p>インタビューする</p> <p>↓</p> <p>伝え合う (本時) 3/3</p>	<p>成長したところやよいところがたくさん見つかったよ。いつからそうなったのかな。聞いてみたいな。</p> <p>成長したのには、「ひみつ」がありそうだね。聞いたから見つかるかもしれないね。</p> <p>誰に聞けば分かるかな。どんな方法で聞けば分かるかな。</p> <p>インタビューしてきたことをみんなに話したいな。みんなで伝え合って成長の「ひみつ」を見つけよう。</p>	<p>成長の「ひみつ」という言葉をクラス全体のキーワードにし、インタビューする共通の目的をもてるようにする。</p> <p>取材対象者には事前説明を行い、児童のよいところやできるようになったことに加え、内面的成長(思いやりや頑張り)について具体的なエピソードを話してもらえよう願います。</p> <p>話し合い活動では、「同じ所や違う所」に着目しながら進められよう話し合いの視点を示し、「ひみつ」を書くカードを用意しておく。</p>
<p>③こんなにせい ちようにしたんだね (3)</p> <p>振り返る</p> <p>↓</p> <p>まとめる</p>	<p>「ひみつ」をみんなで探したら、成長できたのには、自分の頑張りとまわりの人が支えてくれたことに気付いたよ。</p> <p>自分の成長をみんなにも伝えたいな。一番伝えたいことは何だろう。</p> <p>どんなまとめ方があるかな。 どのまとめ方が自分の伝えたいことに合っているかな。</p> <p>できたものを見せたいな。</p>	<p>成長を支えてくれた人々の存在に気付けるように、グループで考えた「ひみつ」を全体で振り返る時間をとる。</p> <p>伝えたいことに合った表現方法を選べるように、まとめ方を全体で確認したり、なぜそのことを伝えたいと思ったのか理由も考えたりさせていく。</p>

<p>④ せいちょう したことを つたえよう (6)</p>	<p>発表会を開きたいね。 誰を招待しようか。招待状も作ろう。</p> <p>お世話になった人に気持ちが伝わるとい いな。</p> <p>発表会でほめてもらってうれしいな。 家族にありがとうと伝えられてよかったな。</p>	<p>誰に向けて伝えるのかを意識させ、話し 方や言葉遣いを考えさせていく。</p>
<p>⑤ 3年生も楽 しみだね。 (1)</p>	<p>これからもいろんな人にやさしくするの を続けたいな。</p> <p>できることをもっと増やしたいね。</p>	<p>作成した作品などをもとに、自分たちの 成長やこれからの自分について十分に語 り合う場を設け、進級に向けて意欲的に 生活できるようにする。</p>

3 研究主題とのかかわり

令和6・7年度 舟戸学園連携教育研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進」

～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～

仮説1 児童が楽しさを見出したり、学びのよさを実感できたりするような学習活動の工夫をすれば、自ら主体的に学習する児童が育つだろう。

〈手立て①〉言葉の掲示（主体的な学びに関わる手立て）

- ・話し合いが活発になるような言葉や話し合いのポイントを児童と一緒に作りながら掲示し、活用できるようにする。

〈手立て②〉振り返りカードの活用（主体的な学びに関わる手立て）

- ・学習の終わりの振り返り時間で、児童の気持ちや意識を大切にしながら次時のめあてを決めることで、次時の活動に見通しをもって楽しみにできるようにする。

仮説2 多角的・多面的な見方や考え方ができるような交流する場を工夫すれば、多様性を尊重した関わり合いができる児童が育つだろう。

〈手立て③〉話し合いの工夫（多様性の尊重に関わる手立て）

- ・成長の「ひみつ」を見つけるという共通の目的に向かって話し合うことで、異なる情報の中から自分と同じまたは違うという意見に気付けるようにし、成長の要因を多面的に捉えられるようにする。

4 単元の目標

- 自分自身の成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。

5 単元の評価規準と小単元における具体的評価規準 (全20時間扱い)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	自分自身の成長を振り返る活動を通して、自分のできたようになったこと、役割が増えたことなどが分かっている。	自分自身の成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考える。	自分自身の成長を振り返る活動を通して、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとしている。
学習活動(小単元)における評価規準	1 ①1年間の出来事を想起して、できるようになったことやがんばったことに気付いている。	①自分や友達について、以前の様子を思い起こして今の様子と比較しながら、成長したところやよいところを捉えている。	①1年間の出来事を振り返る中で、自分を見つめ直して、さまざまな面から成長したところを見つけようとしている。
	2 ②周囲の人に質問する際には、適切な連絡方法や依頼方法があることに気付いている。 ③自分の成長には、自分の努力だけでなく、さまざまな人々の支えがあったことが分かっている。	②以前の自分と今の自分を比較したり、これまでのインタビューのしかたを生かして調べたりして、できるようになったことなどに注目している。	②自分の成長過程において調べたいことを見つけ、聞きたいことや取材相手と方法を考えて、今の自分になるまでのことを調べようとしている。
	3 ④自分の成長についてまとめ、自分が成長したことや、その成長を支えてくれた人々がいることに気付いている。	③自分で振り返ったことや周囲の人々から聞いたことを整理しながら、適切な表現方法でまとめている。	③自分の成長を支えてくれた人々への感謝の気持ちを持ち、その思いを伝えていこうとしている。
	4 ⑤自分の成長について発表し、成長を支えてくれたり応援してくれたりする人々がいることが分かっている。	④言葉や話し方など、聞き手のことを意識して発表ができるように、これまでの学習経験を生かして、発表会の準備をしている。	④自分の成長について発表し、自分の成長に気付くことで、これからも自分のよいところを伸ばしていこうとしている。
	5 ⑥これまでの活動を振り返ることで、これからやりたいことやこれからも続けたいことに気づき、生活の中で実践しようとしている。	⑤どんな3年生になりたいかやこれからやってみたいことについて考え、友達と伝え合っている。	⑤自分の成長を自覚するとともに、それを支えてくれた人々への感謝の気持ちを持ち、進級に向けて意欲的に生活しようとしている。

6 指導と評価の計画

小単元 (時数)	小単元の目標 主な学習活動 「主体性・多様性」の視点に基づく学習活動 (主・多)	小単元の評価 規準との関連	評価規準から想定した具体的な子供の姿 (評価方法)
1. 今のわたしはどんなわたし (3)	自分や友達の成長を伝え合う中で、以前の様子を思い起こし、今の様子と比較しながら成長したことを捉えることができ、できるようになったことや頑張ったことに気付くことができるようにする。		
	① 1年間を振り返り、自分の成長したところを見つける。主	主体①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間の活動写真を見ながら印象に残ったことなどを話し合ったり、家庭から持ってきた成長に関わるものを見たりして、自分の成長について考えている。(発言・つぶやき)
	② 友達のよいところをカードに書き、互いに伝え合う。多	思・判・表①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達のよいところや頑張っているところを「いいね」カードに書いて交換することで、自分では気付かなかった成長を見つけている。(発言・振り返りカード)
	③ 今の自分を見つめて、感じたことや考えたことを振り返りカードに書く。主	知・技①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以前の様子と今の様子を比較して、感じたことや考えたこと、疑問に思ったことを書いている。(発言・振り返りカード)
2. 今のわたしになるまで(3) 本時 3/3	成長の過程を調べる活動を通して、以前の自分と比較したり、これまでのインタビューのしかたを生かして調べたりすることで、自分の成長にはさまざまな人々の支えがあったことを理解できるようにする。		
	① 前時を振り返り、自分の成長を思い出す。主	思・判・表②	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートを見ながら、自分の成長を振り返り、なぜ成長できたのかという疑問をもっている。(行動・発言)
	② 自分の成長過程を調べるために、誰に取材するか考える。主	主体② 知・技②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞きたいことや相手の都合に合わせた依頼方法を考え、適切な態度や言葉遣いでインタビューを行う準備をする。(発言・行動・インタビューシート)
	◎ インタビューなどを行い、調査する。 (家庭での活動は配当外)		<ul style="list-style-type: none"> ・ インタビューシートをもとに各家庭で調査をする。(インタビューシート)

	③調べたことや気付いたことを伝え合う。 多	知・技③	・インタビューしてきたことを友達と伝え合う活動を通して、成長の「ひみつ」をグループで見つける。(行動・発言・振り返りカード)
3. こんなに せいちょう したんだね(7)	自分の成長についてまとめる活動を通して、調べたことを整理しながら適切な表現方法でまとめ、自分が成長したことや成長を支えてくれた人がいることに気づき、感謝の気持ちをもつことができるようにする。		
	①成長の「ひみつ」についてクラス全体で話し合う。幼稚園生や中学生のインタビューから成長の「ひみつ」を見つける。主	主体③	・グループで見つけた成長の「ひみつ」をクラス全体で共有したり、幼稚園生や中学生のインタビューから成長の「ひみつ」を見つけたりすることで、成長を支えてくれた人々の存在に気づき、その人たちに感謝の気持ちを伝えたいという思いをもっている。 (発言・振り返りカード)
	②まとめたい内容とまとめる方法を考える。主	思・判・表③	・一番伝えたいことは何か、なぜ伝えたいと思ったのかなどを考え、伝えたいことに合わせた表現方法を選んでいる。(発言・準備カード)
	③～⑥自分の成長を作品にまとめる。主	思・判・表③	・自分の伝えたいことが表現できるように作品をまとめている。(作品・発言)
	⑦作品を交流する。多	知・技④	・出来上がった作品を友達と交流し、よいところなどを伝え合い、発表会への意欲をもっている。 (行動・つぶやき・振り返りカード)
4. せいちょう したことを つたえよう (6)	自分の成長を発表する中で、聞き手の反応を意識し、これまでの学習経験を生かして発表することで、成長を支え、応援してくれる人々がいることが分かり、これからも自分のよいところを伸ばそうとすることができるようにする。		
	①発表会に向けて見通しをもつ。主	思・判・表④	・言葉遣いや話し方、招待状を用意するなど、発表会に向けて準備することを考えている。 (発言・つぶやき)
	②③発表会の準備をする。主	思・判・表④	・友達と互いに聞き合ったりしながら、発表会に向けて練習している。(発言・行動)
	④⑤発表会を開く。主	知・技⑤	・感謝の気持ちが伝わるように、自分の成長をまとめた作品を招待者の前で発表している。 (行動・振り返りカード)

	⑥発表会を振り返り、感想を伝え合う。主	主体④	・友達と発表会の感想を伝え合うことで、成長を支えてくれている人々への感謝の気持ちをもって、これからも意欲的に生活しようとしている。 (発言・つぶやき・振り返りカード)
5. 3年生も楽しみだね(1)	自分の成長を自覚するとともに、それを支えてくれた人々への感謝の気持ちを持ち、これからの進級後も意欲的に生活しようとするができるようにする。		
	①単元全体を振り返る。主	主体⑤ 思・判・表⑤ 知・技⑥	・発表会を通して、成長を支えてくれた人々への感謝の気持ちを持ち、進級に向けてやってみたいことやこれからも続けていきたいことを考えている。(発言・振り返りカード)

7 本時について(6/20時)

(1) 目標

- ・周囲の人から聞いたことをもとに成長の要因について話し合う活動を通して、自分の成長は、自分の努力だけでなく、さまざまな人々の支えがあったことが分かっている。

(2) 展開

児童の活動・意識	評価基準(◇) 指導上の留意点(○)	時間
1 前時の学習を想起し、本時のめあてを確認する。	本研究の「主体性・多様性」の視点を重視した指導(★) ○なぜインタビューをしてきたのかを確認し、成長の「ひみつ」を見つけたいという意欲を持ち、見通しをもって自分たちで活動を進めていけるようにする。	2
せいちょうの「ひみつ」を見つけよう。		
2 「ひみつ」を見つけるための方法や約束を考える。 (方法) ・友達と自分の同じ所を見つければ、成長の「ひみつ」に気付けるかもしれないよ。 ・自分にはないすてきな所を見つけたら、成長の「ひみつ」に気付くさだよ。 (約束) ・友達がインタビューしてきた話を最後までよく聞くことが大切だよ。 ・最後まで話を聞いてから、自分の意見は言ったほうがいいね。 ・「〇〇さんはどうですか」と意見を聞くといいね。	★成長の「ひみつ」を見つけるという目的意識がぶれないようにし、グループで伝え合うときには、同じ所やすてきな所を探しながら「ひみつ」を探していくことを全体で確認する。 (舟戸幼稚園の視点①手立てとのつながり) ○見つけた「ひみつ」をカードに書くときは、自分一人で書くのではなく、グループのメンバーに「自分はこう思うけど、どうかな」と聞いてから書くようにする。 ○国語で既習の「話合いをつなげるポイント」を押さえるようにする。	5
3 インタビューしたことをまとめたワークシートをもとに、友達との同じ所や	★異なる情報をもとに共通の目的に向かって話し合う場を設定することで、成長の要因には	2 2

<p>友達のエピソードのすてきな所を伝え合いながら、成長の「ひみつ」を見つけ、ひみつはっけんカードに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さい頃はできなかつたけど、少しずつできるようになってきたところが同じだね。これって、こつこつやってきたからだよ。 ・一輪車をできなくてもあきらめなくてすごいね。成長のひみつは「あきらめない」ということもあるね。 ・私はできるようになるまでお父さんが一緒にやってくれていたよ。私は、幼稚園の先生がずっと応援してくれたよ。「おうえん」が成長のひみつになるね。 ・うまくいなくて、泣いたこともあったって言われたよ。私も同じでそういうことあったよ。「くやしくて泣く」も成長のひみつになるんじゃないかな。 	<p>多様な考えがあることに気付けるようにする。(舟戸幼稚園の視点①手立てとのつながり)</p> <p>◇自分の成長には、自分の努力だけでなく、さまざまな人々の支えがあったことが分かっている。</p> <p>【小単元の評価規準 知識・技能③】 (話合いの様子・発言・つぶやき)</p> <p><手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひみつはっけんカードにたくさん書いているグループには、「成長するために特に大事なものを3つ選ぶとしたら何だろう？」などと声をかけ、成長の要因についてさらに深く追求できるようにする。(手立て③) ・話合いに参加できていない児童には、まずは自分のインタビューしてきたことを話せるようにグループの中に入りながら仲介する。また、友達と自分の共通点を見つけて「同じです」と伝えられるように個別に声をかける。(手立て①) ・成長を支えてくれていた人の存在に気付いていないグループには、支えてくれた人の存在に気付いている児童のインタビューシートに着目させ、「この話をもう少し詳しく教えて」と具体的に話をさせ、そのあとに「〇〇さんの成長のひみつは何だろう」などと問いかける。(手立て③) 	
<p>4 本時の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合ったら、成長の「ひみつ」をこんなに見つけられてうれしかったです。 ・同じ所があるなんて、驚きました。 ・一人では見つけられなかつたけど、みんなと話し合ったら、「ひみつ」に気付くことができたよ。 	<p>○グループ活動後に振り返り時間をとることで、自分たちの頑張りに気づき、充実感を味わえるようにする。</p> <p>○本時の課題の「ひみつ」を見つけるのはどうだったか、皆で話し合ったら見つけられそうだと考えていたが、それについてはどうだったか、成長の「ひみつ」を知ってどうだったかなど、振り返りの視点を示すようにする。</p>	10
<p>5 他のグループの「ひみつ」カードを見に行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんのグループは、「くやしくて泣く」が成長の「ひみつ」って考えているね。 ・「くりかえしがんばる」って書いているグループ多いね。 	<p>○自分のグループと他のグループの同じ所や、他のグループの考えのよいところを見つけてこられるように声をかける。</p>	5
<p>6 他のグループの「ひみつ」カードを見に行った感想を伝え合い、次時への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おうえん」って書いているグループがたくさんあったね。 	<p>★振り返りを発表させ、次時の活動への意欲や期待を全体で共有できるようにする。(舟戸幼稚園の視点①手立てとのつながり)</p>	3


<ul style="list-style-type: none"> もう少し他のグループのカードを見たかったな。 それぞれのグループの意見を全部出し合って、「ひみつ」をまとめたいね。 		
--	--	--

(3) 板書計画


広がれ わたし

せいちょうの「ひみつ」を見つけよう。

<p>〈ほうほう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じところ ・すてきなところ 	<p>〈やくそく〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さいごまで友だちの話を聞く。 ・どう思うか、友だちに聞く。
--	---



「ひみつはっけん」カードに書く。



- ・グループで話し合ったら、「ひみつ」をたくさん見つけられた！
- ・自分と同じところがあるなんて、おどろいた。
- ・自分ではせいちょうの「ひみつ」に気づかなかったけど、みんなが教えてくれて、なるほどと思った。

〈ほかのグループのカードを見て・・・〉

- ・「おうちの人のおうえん」って書いているグループがあって、わたしたちは気づかなかったな。
- ・成長したのには、いろんな「ひみつ」があるね。
- ・みんなのカードを黒板にはってもう1回見てみたいな。

舟戸小学校

国語科 学習指導案

授業学級	第 4 学年 1 組
単元名	友情のかべ新聞
授業者	塚越 颯

第4学年1組 国語科学習指導案

令和8年2月3日（火）第5校時
 活動場所 4年1組教室
 在籍児童数 29名
 指導者 教諭 塚越 颯

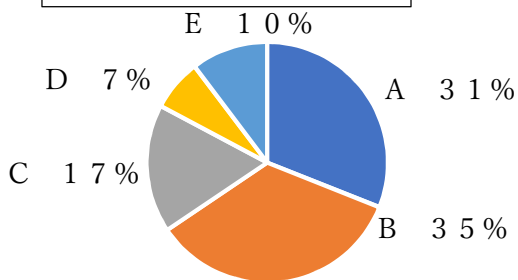
1 単元名・教材名 つながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったことを話し合おう
 「友情のかべ新聞」

2 単元について

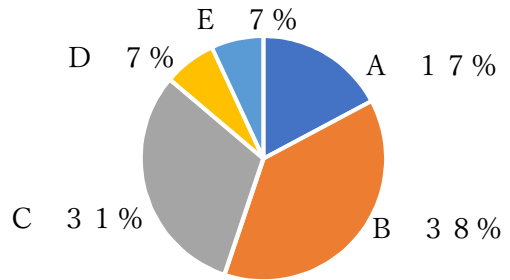
(1) 児童観

本学級の児童は、これまでの物語学習を通して、言葉や出来事、登場人物の心情、情景などを関連付けて読む力を段階的に伸ばしてきた。「白いぼうし」では、場面のつながりに注目しながら女の子の正体が蝶である手がかりを見つけ、考えを文章化して交流してきた。「一つの花」では、繰り返し使われている言葉や物に目を向け、場面ごとの書かれ方の似ているところや違いを比べ、登場人物の気持ちの揺れを読み取り、考えを伝え合った。「ごんぎつね」では、登場人物の行動や気持ちの変化に注目し、二人のすれ違いがどのように描かれているかを読み取り、読み取ったことをもとに自分の考えを文章にまとめて考えを伝え合った。こうした学習を通して、どんな視点で読むかを意識しながら、言葉から読みを深める姿が見られるようになってきている。

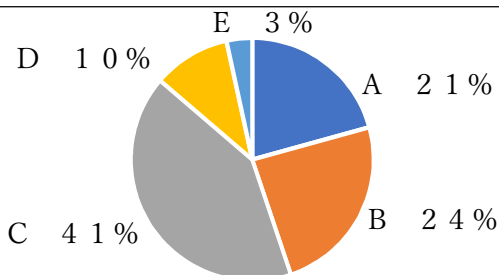
話し合い活動は好きですか。



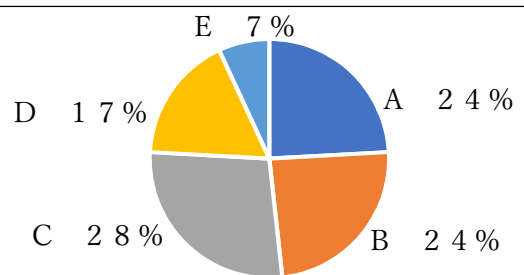
友達の意見を聞くとき、自分の考えが同じところや、違うところを見つけていますか。



友達の話聞いて、自分の学習に生かしていますか。



授業の振り返りを学習に生かしていますか。



A よく当てはまる B どちらかといえば当てはまる C どちらともいえない
 D あまり当てはまらない E 全く当てはまらない

※【令和7年度10月】第2回研修アンケートより抜粋（29名実施）

アンケートの結果、本学級の児童は友達と関わる学びに概ね前向きである。話し合い活動を「好き」と答えた児童は約6割を占め、友達との対話を通して考えを深める意欲が見られる一方で、苦手意識をもつ児童も一定数いる。また、友達の意見を聞いて自分の考えに生かすことができる児童はまだ少なく、聞いたことを自分の学びや成長につなげる力の育成が今後の課題である。

(2) 教材観

本単元は、学習指導要領の第3学年及び第4学年の「思考力・判断力・表現力等」の目標(2)「筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする」を受け、[内容C 読むこと](1)エ「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」をねらいとしている。

本教材には、「東君」「西君」、そして語り手の「ぼく」が登場する。仲の悪い二人の関係が、ある出来事をきっかけに変化していく様子を、「ぼく」が客観的に推理しながら明らかにしていく物語である。物語は、伏線や因果関係が少しずつ解き明かされる構成となっており、読者は「なぜ」「どうして」と考えながら読み進める中で、謎が解けていく面白さを味わうことができる。叙述の手がかりをもとに読み返すことで、登場人物の心情や関係の変化を多面的に捉え、繰り返し読むことの楽しさを実感できる教材である。

(3) 指導観

登場人物の気持ちや性格の変化を場面と結び付けて想像し、文章の手がかりから意味を発見できるよう、場面の移り変わりや登場人物の言動に着目させる指導をしていく。

友達との考えの交流や書く活動を通して根拠をもって読みを深めることができるよう、文章中の表現を根拠として示す問いかけや、気持ちや性格の変化を整理する活動などの手立てをとっていく。

「四方山タイム」を活用し、何のために話し合うのかを提示することで、話し合いの目的を明確にする。また話し合いの視点をもって少人数で話し合いを行うことで、自信をもって自分の考えを発信できるようにする。さらに、授業で学んだことを生活の中の読書に生かし、本を楽しく読むことにつなげたい。

3 研究主題とのかかわり

令和6・7年度 舟戸学園連携教育研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進」

～多様性を尊重した関りの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～

仮説1 児童が楽しさを見出したり、学びのよさを実感できたりするような学習活動の工夫をすれば、自ら主体的に学習する児童が育つだろう。

〈手立て①〉話し合いの視点の明確化（主体的な学びに関わる手立て）

- ・四方山タイムで何のために話し合うか、目的を明確にし、話し合いのゴールを示す。
- ・話し合いの際に具体的にどんな言葉を使えばよいか一目で分かるように、言葉貯金表を掲示し、いつでも話し合いの手掛かりとできるようにしておく。

〈手立て②〉振り返りシートの活用（主体的な学びに関わる手立て）

- ・南中学校でも振り返りシートを活用していることから、小学校でも毎時間の振り返りを一枚のシートにまとめることで、学習の見通しをもたせたり、学びの良さを実感させたりする。

仮説2 多角的・多面的な見方や考え方ができるような交流する場の工夫をすれば、多様性を尊重した関わり合いができる児童が育つだろう。

〈手立て③〉ICTによる思考ツールの活用（多様性の尊重に関わる手立て）

- ・思考ツールを活用することで、思考の可視化、整理を行う。
- ・児童の考えを共有することで、他者の考えと自分の考えを比べ、見直したり、広げたりできるようにする。

4 単元目標

- (1) 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。
〈知識及び技能（3）オ〉
- (2) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。
〈思考力、判断力、表現力等C（1）エ〉
- (3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
〈学びに向かう力、人間性等〉

5 本単元における言語活動

詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動

（関連：言語活動例イ）

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。	①登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。	①積極的に登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けながら想像して読み、学習の見通しをもって、おもしろいと思ったことを伝え合おうとしている。

7 指導と評価の計画（全8時間扱い）

時	学習活動（・） 「主体性・多様性」の視点に基づく学習活動（主 多）	評価規準と評価方法 指導に生かす評価（・）記録に残す評価（○）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 P65 の題名やリード文から物語を想像して、範読を聞き、物語の感想を共有する。 単元の学習計画を立てる。主 			<ul style="list-style-type: none"> 「問いをもとう」を基に、書かれていることつながりや、おもしろいところを探求しようとしている。 [観察・発言] 問いをもち、単元目標を理解して学習の見通しをもっている。 [観察・発言]
2 3	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の性格や行動を確かめノートに書き、話し合う。多 		<ul style="list-style-type: none"> ○登場人物の性格を叙述を基に確かめている。 [発言・記述] ○登場人物の行動、そのときの様子をpushさえ、物語の展開を捉えている。 [発言・記述] 	

4 (本時) ・5	<ul style="list-style-type: none"> ・書かれていることつながりを見つけながら読み、登場人物の気持ちや関係の変化、「ぼく」は何を手がかりに推理したのかについて話し合う。☑ 		<p>○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像している。 [発言・記述]</p>	<p>○積極的に登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けながら想像して読み、学習の見通しをもって、おもしろいと思ったことを伝え合おうとしている。 [観察・記述]</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・おもしろいと思ったところについて、理由とともにノートにまとめる。☑ 		<p>○物語のおもしろいところについて、叙述と叙述をつなげて、理由とともに書きまとめている。 [記述]</p>	
7 ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> ・おもしろいところについて話し合う。☑ ・単元を振り返る。 ・様々なミステリー作品を読み、推理していくための文章のつながりや組み立て、謎解きのおもしろさについて話し合う。☑ 	<p>○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付く。 [観察・発言]</p>	<p>○話合いを通して、友達との感じ方の違いを知り、自分の考えを広げている。 [発言・記述]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・つながりを見つけ読むことを、これからの物語を読む学習でいかそうとしている。 [記述・発言]

8 本時の学習指導（4/8時間目）

（1）本時の目標

登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。〈思考力、判断力、表現力等〉C（1）エ

（2）評価規準

登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。【思考・判断・表現】

（3）展開

学習活動	○学習内容	評価規準（◇） 支援（⇒） 指導上の留意点（○） 本研究の「主体性・多様性」の視点を重視した指導（★）	時間
1 音読をする。	○音読の仕方	○音読を継続することで、語彙力や読解力、学習への意欲を高めるようにする。	3
2 前時を振り返り、本時のめあてを確認する。		○振り返りシートを活用して、前時の学習の内容を確認させる。	3
④「東君」と「西君」が仲良くなったと思うタイミングは、どこだろう。			
3 仲良くなったと思うタイミングについて自分の考えをまとめる。	○考えの可視化	○登場人物の変化を、行動や性格を表す叙述どうしをつなげて考えるよう、声掛けをする。 ⇒登場人物の出来事をまとめたワークシートから選ばせる。 ★ICTによる思考ツールの活用：①思考ツールを活用することで、思考の可視化、整理を行う。②児童の考えを共有することで、他者の考えと自分の考えを比べ、見直したり、広げたりできるようにする。 ⇒タブレットで入力難しい児童には、ワークシートに記述させ、撮影してタブレットに反映させるよう支援する。	8

<p>4 自分の考えと比較するときの視点を確認する。</p>	<p>○交流の仕方</p>	<p>○同じところや違うところについて明確にするために、話し合いの前に全体で確認をする。</p> <p>★何のための話し合いかを明確にし、自分と友達の意見を比べるとき視点として、同じところや違うところを理解できるようにする。</p>	<p>3</p>
<p>5 仲良くなったと思うタイミングについてグループで話し合い、考えをまとめる。</p>	<p>○グループでの考えの共有</p>	<p>★聞き方の型を提示することで、活発な話し合いを促す。(南中との視点②とのつながり)</p> <p>○互いに叙述のつながりに着目できているかを確認し合い、必要に応じて質問ができるように、声掛けをする。</p>	<p>10</p>
<p>6 話し合いを踏まえて、自分の考えをまとめる。</p>	<p>○考えの可視化</p>	<p>○話し合いをもとに、再構築した自分の考えをタブレットに入力する。</p> <p>★ICTによる思考ツールの活用：①思考ツールを活用することで、思考の可視化、整理を行う。②児童の考えを共有することで、他者の考えと自分の考えを比べ、見直したり、広げたりできるようにする。</p> <p>⇒タブレットで入力難しい児童には、ワークシートに記述させ、撮影してタブレットに反映させるよう支援する。</p> <div data-bbox="805 1451 1439 1854" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇【思考・判断・表現】</p> <p>発言・記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる児童をBとする。 <p>〈「努力を要する」状況(C)への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の出来事をまとめたワークシートを提示し、その中から選ばせる。 </div>	<p>8</p>

7 学習のまとめをする。	○感じ方の広がりや変化の変化の共有	○登場人物の関係が変わったところは、書かれていることつながりを見つけながら読めばよいことを確認する。	5
<p>㊦ 「東君」と「西君」が仲良くなったと思うタイミングは、相手のことが分かり始めたときである。</p>			5
8 本時の学習を振り返る。 ・友達と話し合い、自分の感じ方や捉え方が変わったところを考える。		<p>○話し合いを通して、自分の気付かなかった新しい視点や考え方に触れたり、さらに深く意味が分かったりしたことを考えさせる。</p> <p>○本時の学習を振り返るとともに、読書をする際に生かすことができるように意見を紹介する。</p> <p>★振り返りシートの活用：毎時間の振り返りを一枚のシートにまとめることで、次時の見通しをもたせたり、学びの良さを実感させたりする。（南中の視点①とのつながり）</p>	
<p>〈期待される児童の振り返り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と話し合いをすることで、気付けなかった考えや視点に気付けた。 ・他の物語を読むときも、場面ごとに登場人物の気持ちの変化を考えて読んでみたい。 			

(4) 板書計画

<p>㊦ 「東君」と「西君」が仲良くなったと思うタイミングは、相手のことが分かり始めたときである。</p>	<p>各班の考え</p> <p>各班の考え</p> <p>各班の考え</p>	<p>各班の考え</p> <p>各班の考え</p> <p>各班の考え</p>	○仲良くなったと思うタイミング	<p>※揭示物</p>	○話し合いの視点	<p>※ワークシートの拡大図</p>	○仲良くなったタイミング	<p>㊦ 「東君」と「西君」が仲よくなったと思うタイミングは、どこだろう。</p>	<p>友情のかべ新聞</p> <p>はやみね かおる</p>
---	--	--	-----------------	-------------	----------	--------------------	--------------	---	--------------------------------

友情のかへ新聞 ③

④め

○自分の考え(話し合う前)

教	手がかりとなる文

--

○自分の考え(話合った後)

--

舟戸小学校

算数科 学習指導案

授業学級	第 6 学年 2 組
単元名	データを使って生活を見なおそう
授業者	板橋 萌絵

第6学年2組 算数科学習指導案

令和8年2月3日(火) 第5校時
活動場所 6年2組教室
在籍児童数 32名
指導者 教諭 板橋 萌絵

1 単元名 「データを使って生活を見なおそう」

2 単元について

(1) 児童観

本校の児童の学力の実態について、令和7年度埼玉県学力・学習状況調査の結果から見ると、本校はほとんどの領域で平均正答率を上回っている。一方で、「データの活用」の領域では正答率が下回っていた。

そのため、算数の学習に関する実態を把握するための児童アンケート(実施人数31名)をとった。集計結果は以下のとおりである。

質問①疑問に思ったことがあったとき、データを使って解決してみたいと思いますか。

・思う(6人) ・思う時もある(17人) ・思わない(8人)

質問②ヒストグラム(柱状グラフ)や代表値(平均値や中央値)の意味を人に説明することができますか。

・できる(19人) ・自信がない(12人)

質問③複数のデータを見比べて結論を出すとき、どんなことが難しいと感じますか。

・どこを見たらよいか分からない(4人) ・数字が多くて分かりにくい(7人)
・データから分かる違いを上手く言えない(8人) ・考えるのが面倒くさい(7人)
・あまり難しいと感じない(11人)

質問④複数のデータを見た時「ちがい」や「共通点」を見つけるのは簡単ですか。

・とても簡単(4人) ・簡単(16人) ・少し難しい(10人) ・とても難しい(1人)

質問⑤理由を言葉で説明するのは難しいですか。

・あまり難しいと感じない(23人) ・難しい(8人)

質問⑥どのような点で理由を言葉で説明するのが難しいと感じますか。

・語彙力がなくて表現するのが難しい ・ヒストグラムの意味など
・自分の言葉で伝え、あまりかみ合わなかったとき
・データから分かる違いを上手く説明できないため
・ヒストグラムはどのようなときに使えるか、計算の説明を言葉で説明するのが難しい

本学級の児童はヒストグラムや代表値の意味を理解し、説明できる児童が約61%。複数のデータを見た時「ちがい」や「共通点」を見つけることが簡単だと感じる児童も約64%と6割程度に

留まっていることから、データの活用を苦手と感じている児童も少なくないという結果が見られた。

また、自分の主張の理由を述べることへの苦手意識をもっている児童も全体の25%いる結果となった。これは、回答にもあるように、ヒストグラムや代表値の意味が理解しきれていない部分からくる自信のなさであったり、相手に伝えるための語彙が不足していたりすることが原因として挙げられる。

これらのことから、具体的な場面設定を使って、実生活に即したデータの読み取りや判断を行う指導や、ヒストグラムや代表値の意味を再度確認し、基礎の定着を図ることが必要であると考えられる。

そこで、本単元では、データを視覚的に比較する力を高めるための活動（グラフ作成・分析等）を進め、児童がデータを扱えるよう指導していく。また、データを活用する問題を通じて、実際の場面でどのようにデータを使うか、判断力を養うことをねらいとしていく。

(2) 教材観

本単元で扱う統計的な問題解決方法は、小学校指導要領解説第6学年の領域D「データの活用」に基づき設定されたものである。その内容は次のように示されている。

(1) データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

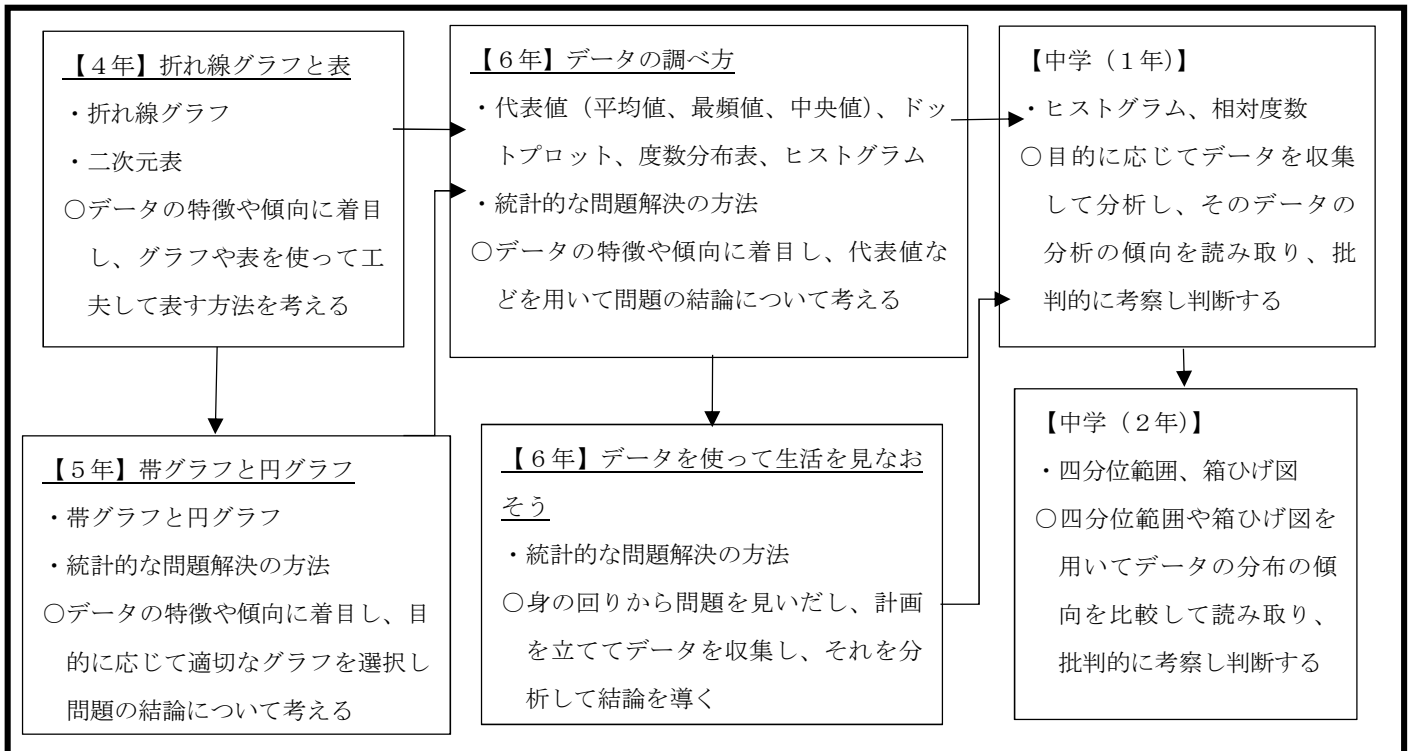
ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ウ) 目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど、統計的な問題解決の方法を知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察すること。

図《本単元の学習の関連と発展》



本単元では、身の回りにある不確かな事象で確かめてみたいことについて、そのことを統計的に解決していくことを問題として設定し、目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断したり、その妥当性について考察したりする力を養うとともに、統計的な問題解決の過程について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用したりする態度を養うことを目標としている。

第5学年までに文字情報として得られる「質的データ」や数値情報として得られる「量的データ」、時間変化に沿って得られた「時系列データ」について表にまとめたり、グラフに表したりすることでデータの特徴や傾向を捉えることを学習してきた。第6学年第7単元の「データの調べ方」では代表値の意味や求め方、度数分布表やヒストグラム（柱状グラフ）、目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど統計的な問題解決の方法について学習してきた。

また、データの活用についても、第5学年の「帯グラフと円グラフ」、第6学年第7単元の「データの調べ方」において、統計的な問題解決の方法について「問題（P）－計画（P）－データ（D）－分析（A）－結論（C）」という「統計的探究プロセス」を提示しながら理解を深めてきた。

本単元では、それらの学習を基に、この方法を用いて実際の児童の身近な場面で問題を解決させていきたい。よって、問題解決の過程で、このプロセスを意識できるようにしながら実行させていくことを大事にしていく。

（3）指導観

本題材では、データを用いて問題を解決する一連のプロセスを進める活動を意識的に行いたい。そのために、問題を児童と共に見出す過程を重視し、児童にとって身近な問題が設定されることが重要となる。そこで第1時で、自分たちの生活を見直し、もうすぐ進学する中学校生活に生かしたいという思いにさせ、単元全体の問題を設定する。生活を見直す中で、「舟戸小6年生の家庭学習時間と比べて自分の家庭学習時間の立ち位置はどこだろう」という問題を設定し、目的に応じてデータを収集、分析する方法を考えていく。ここでは、単に自クラスの家庭学習時間と自分の家庭学習時間の長短を調べたり、中学生の家庭学習時間を調べたりするという目的だけでなく、どのようにしたら自分の家庭学習時間と比べて見直して実生活に役立てたりすることができるのかを考え、調べるための計画を立てる。そして、収集したデータを表にして分かることを話し合うことを通して、データの傾向や特徴を理解し、自分の家庭学習時間と比べることへ繋げていく。そうして、それらを解決していくためにはヒストグラムや代表値に表すことが必要であることに気づかせ次時へつなげていく。これまで学習してきた統計的な問題解決の過程を児童の生活に関わる事柄を用いることで、そのよさを感じて学習に行かそうとし、PPDAC サイクルのプロセスを意識しながら解決しようとする態度を育成していきたい。

第2時・3時では、自分の家庭学習時間が舟戸小学校の6年生全員の家庭学習時間と比べて長いのか短いのかを判断するために、データを各グループで分担してヒストグラムや代表値に表して分析していく。ヒストグラムを分析する際は、「〇分以上家庭学習をしている人はこのくらいいる」などの全体の様子を把握できるという、ヒストグラムに表すよさについても確認する。実際に代表

値を求めて分析を行うため、求め方を確認しておく。データの分析を行う際には、初めに中央値や最頻値の意味、よさを扱うことにより代表値からデータを正しく分析できるようにしたい。その後、他のグループ同士でグループを組み、先ほど分析したことを持ち寄り説明させる。説明を聞くことで、複数のデータを見比べることになり、そこから新たな特徴や傾向を読み取ろうとする力を育てたい。

第4時・5時・6時では、前時までに行ったデータの特徴や傾向に着目し、問題に対する結論を考える。そして、その結論から「中学生と比べてみると自分の立ち位置はどうなるのだろう」という新たな問題を提起させ、第2時・3時と同様に PPDAC サイクルを回していく。PPDAC サイクルを繰り返すことにより、自分たちで問題を設定し、計画を立てることや分析を通じて判断した結論についても別の視点から妥当性を検討したり、さらに詳しく分析したりする場面で目的に応じてデータを収集、分類整理し、結果を適切に表現するという数学的な見方・考え方をより一層働かせていきたい。

3 研究主題とのかかわり

令和6・7年度 舟戸学園連携教育研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進」

～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～

仮説1 児童が楽しさを見出したり、学びのよさを実感できたりするような学習活動の工夫をすれば、自ら主体的に学習する児童が育つだろう。

〈手立て①〉教師視点のしかけ（主体的な学びに関わる手立て）

- ・子供の興味・関心を高める単元を見通した導入の工夫。実際に中学校の先生に中学校でのテストについてインタビューした動画を見せることで、子供自身から「中学生になったらどのくらい勉強しなければいけないのか」と興味を高め、学習活動への意味をもたせる導入を行う。

〈手立て②〉児童視点のしかけ（主体的な学びに関わる手立て）

- ・振り返りシートを活用。南中学校でも振り返りシートを活用していることから小学校でも毎時間での授業のキーワードと視点を明確にした振り返りを記入させる。それを毎時間の導入時に確認していくことで、前時と本時の内容を繋げ、自ら課題を見つけ、見通しをもって学習に臨めるようにする。

※振り返りの視点：【①わかったこと、②できたこと、③わからなかったこと、④疑問に思ったこと、⑤友達の考えですてきだったこと、⑥今日の自分からレベルアップするために頑張ること】

仮説2 多角的・多面的な見方や考え方ができるような交流する場の工夫をすれば、多様性を尊重した関わり合いができる児童が育つだろう。

〈手立て③〉交流のしかけ（多様性の尊重に関わる手立て）

- ・活動の中で同種・異種のグループ交流を行う。一回目のグループは同じデータを分析する。二回目のグループでは違うデータを分析していた友達と組み、各データをどのように分析したか

を説明し、それぞれの分析結果を基に自分の結論を出す。この活動を通して、他者との違いを受け入れたり認めたりし、協働してよりよいものを作り上げていこうとする態度を育てていく。

4 単元目標

- 目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど統計的な問題解決の方法について理解することができる。 〈知識及び技能〉
- 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察することができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- 統計的な問題解決の過程について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ヒストグラム（柱状グラフ）や代表値を用いてデータの特徴を調べることができる。	①身の回りの事象について、統計的に解決する問題を設定し、目的に応じたデータの収集と分析について考えている。 ②データの特徴や傾向に着目し、問題に対する結論を考え代表値などを用いて判断したり、結論や問題解決の過程が妥当であるかどうかを別の観点や立場から批判的に考察したりしている。	①ヒストグラムや代表値からデータの特徴を見出そうとしている。 ②データの特徴や傾向に着目し、問に対する結論を考え、代表値などを用いて判断しようとしている。

6 指導と評価の計画（全5時間扱い）

時	学習活動（・） 「主体性・多様性」の視点に基づく学習活動（主 多）	評価規準（評価方法） 指導に生かす評価（・）記録に残す評価（○）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	P（問題） ・舟戸小6年生の勉強時間は同じ？自分の立ち位置はどこだろう。 ・自分達の生活を見直すため、家庭学習時間について調べるといふ課題を設定する。主 P（計画） ・どのように調べるか、問題解決のための学習計画を立てる。		・身の回りの事象について、統計的に解決する問題を設定し、目的に応じたデータの収集と分析について考えている。 （行動観察、ノート分析）	

	D (データ) ・6年生の一週間の家庭学習時間のデータを集めて、分類整理する。			
2	A (分析) ・班で分担して、集めたデータをヒストグラムや代表値、曜日ごとのヒストグラムに表し、各データの特徴を捉える。 ・調べたことを別のチームに持ち帰り、互いの調べたことを説明する。多	・ヒストグラム(柱状グラフ)や代表値を用いてデータの特徴を調べることができる。(ノート分析)		○ヒストグラムや代表値からデータの特徴を見出そうとしている。(行動観察、ノート分析)
3	C (結論) ・これまでに分析してきたことから、家庭学習時間について考えをまとめる。主 P (問題) ・「中学生の家庭学習時間と自分の家庭学習を比べると自分の立ち位置はどこになるのか」という問題を設定する。 P (計画) ・どのように調べるか、計画を立てる。 D (データ) ・データを集めて、分類整理する。		・身の回りの事象について、統計的に解決する問題を設定し、目的に応じたデータの収集と分析について考えている。(行動観察、ノート分析)	
4 (本時)	A (分析) ・平常週とテスト前週のヒストグラムや代表値、曜日ごとのヒストグラムに表された各データの特徴を捉える。 ・調べたことを別のチームに持ち帰り、互いの調べたことを説明する。多 C (結論) ・中学生の家庭学習時間を分析してきたことから、自分の家庭学習時間について見直すべきことを判断し、結論を考える。		○データの特徴や傾向に着目し、問題に対する結論を考え代表値などを用いて判断したり、結論や問題解決の過程が妥当であるかどうかを別の観点や立場から批判的に考察したりしている。(行動観察、ノート分析)	
5	・中学生の家庭学習時間を分析してきたことから、自分の家庭学習時間について見直すべきことを判断し、オクリンクプラスでまとめたことを発表する。		○データの特徴や傾向に着目し、問題に対する結論を考え代表値などを用いて判断したり、結論や問題解決の過程が妥当であるかどうかを別の	・データの特徴や傾向に着目し、問に対する結論を考え、代表値などを用いて判断しようとしている。(行動観察、ノート分析)

			観点や立場から批判的に考察したりしている。 (行動観察、ノート分析)	
--	--	--	---------------------------------------	--

7 本時について

(1) 本時の目標

- ・データの特徴や傾向に着目し、問題に対する結論を考え代表値などを用いて判断したり、結論や問題解決の過程が妥当であるかどうかを別の観点や立場から批判的に考察したりすることができる。
(思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開

学習活動	教師の発問 (◎) 予想される児童の反応 (・)	評価規準 (◇) 支援 (⇒) 指導上の留意点 (○) 本研究の「主体性・多様性」の視点を重視した指導 (★)	時
1 前時の振り返りとキーワードを確認する。	◎前回はどのような学習を行いましたか。 ・南中学校の先生インタビュー動画から、自分の勉強時間が中学生と比べてどの立ち位置にいるのか調べる計画を立てました。	★振り返りシートを用い、前時の内容とキーワードを確認し、単元全体や本時の見通しを持つ。 (南中の視点①とのつながり)	2
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">問題 (P) 「中学生のデータと比べると自分の立ち位置はどこ？ 中学未来予想！」</div>			
2 課題を見出す。	・計画を立ててデータを集めたので、今日はその分析をします。	★子ども自身から「中学生と比べて自分の家庭学習時間の立ち位置はどこだろう」と思わせるように、身近な話題から本時の問題と結び付ける声掛けを行う。	2
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">課 ヒストグラムや代表値からデータの特徴や傾向を読み取ろう。</div>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">分析 (A)</div> 3 グループの3人に別々のデータを渡し、各自でデータの特徴や傾向を分析する。(個人)	◎データを読み取って分かることはなんですか。 【週全体のヒストグラム】 ◎階級の度数が一番多いのはどこかな。 ◎ヒストグラムを読み取ることで分かることは何でしょうか。	○集めたデータは事前に教師がヒストグラムや代表値に表し、児童の分析をする時間を多くとる。 ○自力で考える時間を少し取ることで、読み取れなかったところは同じデータを持っている友達に聞いてみようという気持ちにさせる。	4
4 各データの担当ごとに3人ずつ集まり、データの特徴や傾向を	◎ヒストグラムを読み取ることで分かることは何でしょうか。 【代表値】 ◎代表値を読み取ると分	★「やりとり語録」を掲示することで、話し合いの際に具体的にどんな言葉を使えばよいか一目で分かるようにし、活発に話せるように促す。(南中の視点②とのつながり)	8

<p>分析する。 (グループ) 【普段週とテスト直前週の全体や曜日ごとのヒストグラム、代表値】</p> <p>5 分析したことを別のチームに持ち帰り、互いに調べたことを説明し、班としての分析結果を出す。</p> <p>6 班でそれぞれ分析して分かったことを全体で共有する。(全体)</p>	<p>かることは何でしょうか。 【曜日ごとのヒストグラム】 ◎曜日ごとや曜日同士を比べるとどんなことが分かるでしょうか。</p> <p>◎各データの分析したことをチームのみんなに説明します。チームの人に伝わるように、用語を使ったり、データを見せたりしながら説明しましょう。</p> <p>◎ヒストグラムや代表値からどんなことが読み取れましたか。 ◎各班で分析して分かったことを発表しましょう。</p>	<p>◎説明の際は、「階級」や「度数」などの用語を使わせるようにし、意味を正しく捉えさせながら使い方に慣れさせていく。いつでも確認できるように用語は掲示しておく。</p> <p>◎分析結果を出す際には、各データから読み取ったことをもとにした根拠も出すように指示する。</p> <p>◎全体で共有することで、読み取りの違いを修正し、各データのよさを再度理解した上で、それを基に結論を出せるように促す。</p>	<p>10</p> <p>6</p>
<p>㊟ ヒストグラムに表すとデータ全体の散らばりの様子が一目で見られる。代表値があると、データの色々な特徴などをもとに、理由を明確にして判断することができる。</p>			
<p>結論 (C)</p> <p>7 課題に対する自分の結論を考え、オクリンクプラスにまとめる。</p> <p>8 本時の振り返りを行う。</p>	<p>◎それぞれの分析を聞いたことを基にして「中学生になった時の勉強時間プランを親に提案しよう」の結論を出しましょう。</p> <p>◎今日の振り返りを書きましょう。今日の結論が出せた鍵は何ですか。</p>	<p>◎結論は次時で共有しやすいようにオクリンクプラスに送るように指示する。</p> <p>◇データの特徴や傾向に着目し、問題に対する結論を考え代表値などを用いて判断したり、結論や問題解決の過程が妥当であるかどうかを別の観点や立場から批判的に考察したりすることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 A：Bに加えて、結論や問題解決の過程が妥当であるかどうかを別の観点や立場から批判的に考察することができる。 B：データの特徴や傾向に着目、問題に対する結論をヒストグラムや代表値などに表されたデータから判断し、批判的に考察することができる。 C：データの特徴や傾向に着目ながら課題に対する自分の結論を考えることが難しい。 【データの特徴や傾向に着目するのが難しい児童への具体的な手立て】 複数のデータを一つずつ確認し読み取れることを児童と話しながら進めていく。</p>	<p>10</p> <p>3</p>

(3) 板書計画

<p>問</p>	<p>「中学生のデータと比べると自分の立ち位置はどこ？中学未来予想！」</p>	<p>課</p>	<p>ヒストグラムや代表値からデータの特徴や傾向を読み取ろう。</p>	<p>主</p>	<p>ヒストグラムに表すとデータ全体の散らばりの様子が一目で見られる。代表値があると、データの色々な特徴などをもとに、理由を明確にして判断することができる。</p>
	<p>それぞれのデータから読み取れたこと</p>				
	<p>普段週とテスト直前週の全体ヒストグラム</p>		<p>普段週とテスト直前週の代表値</p>		<p>普段週とテスト直前週の曜日ごとのヒストグラム</p>

